

四日市公害判決から 50 年

1972年7月24日、四日市公害判決が津地裁四日市支部で下された。それから50年。写真は『四日市公害記録写真集』掲載の判決報告集会で発言する宮本憲一先生。

この1年ほど前、信州大をなんとか卒業して、宮本先生のもとで研究しようと、大阪市大近くに下宿して浪人生活を始めた。慣れない大阪でアルバイトで何とか生計を立て、宮本先生の大学院ゼミに「もぐり聴講」させてもらった。当時は大学院入試の「受験勉強」に追われ、四日市公害についても恥ずかしながら目を向けなかった。



8月20日「四日市公害判決50年展特別講演会」があることを知り、事前予約をしておいた。残念ながら私の事情で行くことができなくなり、主催者に連絡してキャンセルさせてもらった。講演では宮本先生が「四日市公害裁判に参加して—四日市公害判決50年に思うこと」と題して講演されたという。

宮本先生の講演をお聴きして、その感想を書きたいところだが、それはできないので、私の四日市との関わりをすこし記しておきたい。

何といても、四日市公害判決35周年を記念した「四日市環境再生まちづくり提言の集い」が忘れられない。途中から急きょ事務局長となり、集いを準備してきた。そのときもお世話になったのが、四日市公害訴訟で活躍された野呂汎弁護士、四日市公害の「語り部」澤井余志郎さんである。野呂弁護士には、四日市からの帰りの近鉄電車で、訴訟当時の貴重な話をお聴きできた。

澤井さんには、現地のややこしい問題などについて、本当にお世話になった。じつは澤井さんには1999年の日本環境会議名古屋大会で事務局長を務めたときも、環境団体との「調整」などで力になってもらった。何とも言えない澤井さんの草の根の活動に、心を動かされた。澤井さんについては、数多くのレポートを書いている。順不同で主なレポートを記録しておこう。「ガリ切りの記」(2015年12月18日)、「四日市の記憶」(16年1月30日)、「公害を記録するということについて」(1月31日)、「澤井余志郎さん偲ぶ「一周忌」の集い」(12月19日)、「澤井余志郎さんのご家族」(12月27日)などである。



澤井さんが判決の日撮った一枚の写真が忘れられない。裁判所前は支援者らに埋めつくされたが、遠くに見えるコンビナートの煙突からは、勝訴判決を無視したごとく煤煙が吐き出されていた(写真集より)。

(2022年8月29日)